

KTK
NO.115

あらかさ通信

後援会費郵便振替口座
01070-7-32145
あらかさ後援会

編集 あらかさ後援会
編集協力 社会福祉法人あらかさ福祉会
〒617-0813 京都府長岡京市井ノ内広海道42-3
TEL 075-953-9212 FAX 075-953-9215

「ひざ掛けをおとどけしま〜す！」 ワーク さをり工房

今年も京都府から、“敬老の祝い品”の依頼が来ました。毎年100歳を迎えられる方に、さをり織りの肩掛けを贈っていましたが、今年は「膝掛け」を贈ることになりました。

糸張り・織り・房の仕上げ作業等、メンバーさんそれぞれが得意な分野で協力して進めています。8月中旬の納品に向けて、皆さんと頑張っていきたいと思います。(三浦)



あらかさ後援会 総会を開催します

日頃よりあらかさ後援会の活動へのご理解・ご協力ありがとうございます。

7月1日(土) 10時~12時15分 障害福祉センターあらかさ1階ホールにて、2023年度あらかさ後援会総会を開催いたします。

今回、総会の第2部では、ケアホームいそどり建設以前に、学習会に来ていただいた事もある大学の先生を再びお招きして、お話を聞かせて頂く予定です。会員の皆様におかれましては、お誘いあわせの上、ご参加をお待ちしています。(開催のご案内 p4)

あらかさ後援会 事務局長 松村

地域で
くらす

シンさんのあゆみ

うたが大好き!



シンさんは43歳、4歳下の弟と2人兄弟です。
あらぐさでは、Bグループの仲間といっしょに、園芸活動や手作り作品の仕事を楽しく頑張っています。

おいたち

1980年4月4日、そのころ住んでいた京都市西京区上里地区に隣接する長岡京市の藤本産婦人科で誕生しました。3月生まれの予定が4月出産となり、3700gの赤ちゃんでした。『真之介』と命名したのは、徳之島のおしいちゃんです。新生児黄疸が強く出ていたため、京都市の第二日赤病院に入院しました。その間、ヨゼフ整肢園を紹介され母子入院をし、ポイター法での訓練を始めました。お母さんは、8週間の産休を明けて勤務を再開していました。第二日赤では「歩けないだろう」と言われていましたが、府立向日が丘療育園に通う頃には歩けるようになっていました。

お父さんとお母さんは共働きで、当時、公務員の事務職には育児休暇はありませんでした。ヨゼフに母子での入院中、お母さんは年休をつないで過ごしました。1日4回のポイターの訓練は、朝と夜と寝る前はお母さんが行い、昼間はおばあちゃんがしていました。

実家のすぐ近くに向日が丘養護学校勤務の先生がおられ、向日が丘療育園を紹介されました。シンさんは、1歳から療育園に通い、1週間に2回『ことば・からだ・あそび』など、先生や友だちと療育訓練をしました。そこでは、茶話会などお母さんたちとの交流もあり、おばあちゃんは宇治から通っているお母さんたちともお友達になりました。

3歳児からは深田保育所に通い、就学前1年間は、ポニーの学校と併行通園をしました。そこでも、お母さん仲間ができました。耳鼻科仲間とは、休日、西山に出かけ、雪の日も雪中登山やラーメン食などを楽しみました。他の保育所の子どもたちと元気に過ごせたことはいい思い出です。

年長組の時、病院で眼振をはかりました。遠視と診断され、下鴨の井上メガネ店で処方してもらいめがねを作りました。



めがねをかけ始めた頃、母の実家で

シンさんは、めがねをかけている方が落ち着けるらしく、はずれても自分でかけ直しています。シンさんがめがねをかけているのを見て、今までかけていなかった子もめがねをかけるようになったという話がありました。おばあちゃんが世話をしていましたが、保育所の送迎は主に母でした。

就学は、長岡第七小学校へ

友だちの多い深田保育所から第七小に就学しました。お父さんお母さんが共働きのため、第七小の学童保育所『ふうせんクラブ』にも通いました。放課後の学童保育では、深田保育所の仲間が多く、みんな仲良しでとても楽しい時間でした。

第七小には、『きこえ・ことばの教室』が開設されていて指導を受けていました。4年生になると、向日が丘養護学校への就学をすすめられました。この頃、第七小へ送りはおばあちゃんが、学童と弟の保育所への迎えはお母さんがしていました。

『ふうせんクラブ』は、障がいのある子は6年生まで在籍できることになっていたため、転校するとなると送迎をどうするか悩みました。



でも、向日が丘養護学校に転校することに

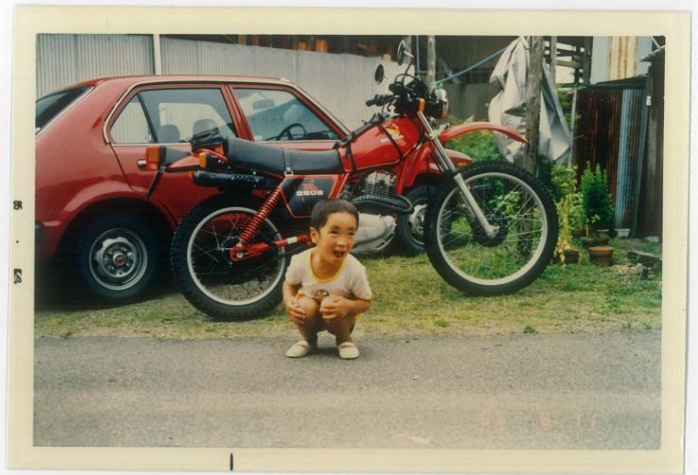
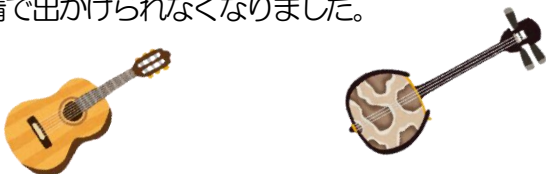
養護学校に転校してからは、スクールバス利用のことや放課後の過ごし方など、いろいろな問題がありました。登下校時は、おばあちゃんがスクールバス停に迎えに行き、おばあちゃん宅でお母さんの迎えを待ちました。当時、学童保育所に通う4歳下の弟の迎えもあり、働くお母さんにとっての両立は大変な日々でした。

養護学校では、お母さんたちと障がい児学童『わっしょいクラブ』の活動をしました。補助金は定かではないけれど年間35万円位だったかなと思います。だから、長期の夏休み冬休みのために若い指導員さんたちと一緒に親同士で力を合わせて資金作りをして共同運営をしました。親当番以外の送迎は、祖父母の車でしました。親同士、いろいろな障がいのある子どもたちをお互いに理解し合うため、車椅子を使っている子のお母さんが、自閉症の子と一緒に善峰に登るなどして頑張ってきました。障がい児学童の時代のお母さんたちは『あらぐさ』『てくてく』『ひまわり園』など、進路を切り拓くための活動に参加しました。障がいがあっても地域であたり前に暮らせるということを目指して、自立支援のためのケアホームづくりに取り組んでいます。

あらぐさでの活動

シンさんは、ジャンルを問わず音楽が好きです。とても楽しそうにからだ全体でリズムをとり、近くにいる仲間みんなもにこにこ笑顔になります。でも、人前では緊張するのかマイクを向けられても歌いませんが、楽しい雰囲気大好きです。今、あらぐさのAグループには、沖縄の『風うたいグループ』が来ています。シンさんはそこに参加して楽しんでいます。Bグループには音楽好きの指導員がいて、シンさんは「オオタ！」とよく声をかけています。Bグループの友だちは、シンさんを立ててくれる人や少し苦手な人などいろいろな人がいますが、元気で働いています。

シンさんは、テルくんとガイドヘルパーで伊丹空港へ行くのが好きでした。でも、コロナ禍と家の事情で出かけられなくなりました。



保育所の為に借りた家の前、母の車と父のバイクと

家庭でのシンさんの様子

嬉しいことがあったり優しくされると安心して、お母さんのからだを触ってきます。家では、お父さんやお母さんが話していると、自分も二人の中に入りたくて「きいてやきいてや!」「おれのはなしをきけ!」と言います。

少し心配なことは、シンさんが時にパニックを起こすことです。自分が怒られているのかなと感じたり、気にいらなことがあったりすると指を強く噛んでいらいらしてきます。周りの人が、気持ちに寄り添って理解し、配慮をする必要がいると思っています。



母の願い

あらぐさのケアホーム（グループホーム）づくりの運動が進み、シンさんが自立

の歩みをしていくために、一日も早く、ホームに入ることができたらと思っています。家族が養育困難ということと、障がいのある人の人生の自立支援とは分けて考えるべきだと思います。親がどのような状態であっても、障がいのある人がよりよく生きていくための人権は守られるべきだと思います。社会の中で一人の人間として、あたり前のくらしや地域で生きていける自立した人生をと願っています。

そのために、一日でも早くその条件をつくってやりたい、母が元気なうちにと、切実に思う日々です。

(聞き取り・文：森垣・真殿)

～みんなおいでよ あらぐさ「リモート」ひろば

福引き大会抽選発表 ～以下の方々に賞品を発送いたしました～ (順不同・敬称略)

A賞(10名) 田上玲子 菊井誠 夏川久子 増田弘子 禎山幸重 荒木まち子 他4名

B賞(20名) 中山千恵子 大槻裕治 京都イブニングロータリークラブ 谷下哲馬 加藤恵亮
清水知香 西井美千代 真殿尊子 垣内望美 安武梢 増田康夫 中山恵美子
高木夏季 丸山彰子 荒木満 坂本憲哉 松浦佳織 五十棲奈津美 他2名

C賞(30名) 山口隆史 前野久子 堀田雅人 長澤直道 佐古田英樹 牧敦子
福保芳京都地本あらぐさ分会 安田隆 伊地知有華 三柳美里 長谷川朋子
三谷文菜 松本友貴 村瀬真里奈 岡村望美 他15名

アートなひろば誌上作品展 ～たくさんのご応募、ありがとうございました。～

次ページより、お寄せ頂いた作品をカラー印刷でご紹介します。

応募総数は42点、内訳は、「写真の部」4点、「絵画・イラスト」12点、「諸工芸・陶芸」12点、「書道」4点、「ポエム・つばやき」3点、「メッセージ」7点です。「俳句・川柳」への応募はありませんでした。

<ご案内> あらぐさ後援会 総会の開催について



日時：7月1日(土) 10時～12時15分

場所：障害福祉センターあらぐさ1階ホール

内容 10:00～ 一部 2022年度事業報告・決算・監査報告・寄付金贈呈

2023年度事業計画・予算・次期役員選出

10:45～ 二部 講演「共感力・集団の力で安心をつくる(仮題)」

1. グループホームのこと
2. おもしろい実践にするためには
3. みんなのねがい
4. 支える者が支えられる



講師：田村 和宏氏

【 自己紹介 】

2015年から立命館大学で障害者福祉論を担当しています。それまでは、びわこ学園で重症心身障害児者の入所・通所・ホーム・相談等に携わってきました。あらぐさ福祉会には、2010年に一度おじゃましています。

現在、大学での仕事以外に、いくつかの法人で理事や、自治体の協議会等の委員や巡回相談、学童保育の実践検討などを行っています。また、人間発達研究所の運営委員長もしており、マルチに活動をしている60歳です。

各グループからの報告



『新たな仲間を迎えて』

4月からAグループに新しい利用者さんが来られました。

後輩ができることを楽しみにされていた利用者さんや、後輩に活動のお手本を見せようと張り切っておられる利用者さんなど、みんな後輩ができたことを意識されています。

新しい利用者さんは、元気で笑顔が素敵な利用者さんです。朝の会では、「名前を呼んで」と先輩よりも先に手を挙げて立候補されています。新たな仲間のご存在は、Aグループにとってもいい刺激になっていく予感があります。これからも日々の活動や行事を通して、楽しさをみんなと共有し、素敵なグループにしていきたいです。(廣瀬)



『皆で合奏♪Bバンド』

Bグループでは、ギターが上手なボランティアさんを中心に「Bバンド」と称して、音楽を楽しむ時間があります。歌を歌うのはもちろん、楽器の種類も豊富でギター・ピアノの伴奏に合わせてカズー、太鼓、タンバリン、トライアングル、ベース等々…好きな楽器を奏でて、素敵な大合奏が出来上がります。3月には桜の木の下に場所を移して、お花見Bバンドもしました。デイ2、Aグループの方も招待して、いつもの歌だけでなく、歌に合わせて電車の様に長い列になってぐるりと回ったりと、外ならではの解放感も楽しみました。最後にジュースで乾杯をして楽しい時間を過ごしました。(太田)



『バレンタインデー』 (ケアホームいそどり)

もえぎ女性棟では、利用者さんから「バレンタインデーにチョコレートを食べたい」とリクエストがあり、バレンタインデーを企画しました。リビングに行事の予定を貼り出すと、皆さん期待いっぱいです。夕食後にチョコレートが出てくると、手に取りじっくり眺めて食べるなど、思い思いに楽しんでおられました。イベント後は、撮った写真をリビングに貼り、「見て見て」「おいしかったよ」など会話が弾んでいました。(丸山)



『お花見』 (Cグループ)

Cグループでは、年2回、春と秋に季節を感じるお出かけの取り組みを行っています。新年度明けての春は、長岡天満宮の八条ヶ池に2グループに分けて出かけました。いつもの外出とは違い、池の真ん中の休憩所のベンチでゆったりとしながら、お菓子とジュースを飲み、ほっこりされていました。

(大江)



『ハウス活動にて』 (デイ2)

デイ2では外活動の1つとしてハウスの活動を継続して行っており、主にその季節ごとの花の育成をしています。

今年の春はペチュニアという花を皆で協力して育成から販売まで行いました。育成では土作りから始まり、播種や水やりなど、その工程ごとに頑張っており取り組んできました。

利用者さんも「花、大きくなってきたな!」「きれいやなあ!」「喜んでくれるかなあ…」など、花の成長を直に感じながら職員に思いを伝えてこられる事もたくさんありました。

そして、育成した約800ポットのペチュニアは無事に完売し、利用者さんもととても喜んでおられました。購入してくださった皆様、ありがとうございました。

(瀬川)



<おねがい>

カタログ物品販売で使用する紙袋が不足しています。宜しければ、皆様からのご提供をお待ちしています。よろしくお願ひします。

ケアホームかざぐるま 助成金で念願の浴室改修 完成

長岡京市奥海印寺のケアホームかざぐるまには、4人の入所者が暮らしています。中古の住宅でスタート。開所から早20年が経ちます。

この度「公益財団法人みずほ福祉助成財団」より助成をいただき、古くなった浴室の改造を実施することができました。「昭和のお風呂」が「令和のお風呂」になると、笑顔いっぱいの利用者さんと職員たちです。



社会福祉法人あらぐさ福祉会
—令和5年度事業推進にあたり(ご挨拶)—

法人の前身である無認可「共同作業所あらぐさ」開所から37年目を迎えます。皆様からのご支援、ご協力を心から厚くお礼申し上げます。

さて、当時10代だった利用者の皆さんは50代半ば、ご家族は80代に入ります。家庭事情や障害の様相、健康状態も変化してきています。しかし、実情が変化しても「この地域で暮らしたい」という思いは不変です。その思いを実現するには、前提条件である福祉制度、そして支える職員の労働条件の改善や職員体制の整備が急務です。また、私たちの仕事、人を大事にするために、日々の支援の工夫と合わせて、支援の持つ意味、価値を社会へ伝えていくことも必要です。

私たちの事業の原点は、理念にあるように人格の尊重と権利擁護にあります。その理念は困難な時ほど問われる指針であることを認識し、利用者一人ひとりの生活に寄り添い、さらなる法人の役割を検討し推進していく一年にしたいと考えます。

令和5年度法人本部は、次のような新体制で事業をスタートしました。今年度もご支援、ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。(本部一同)

【法人本部】

理事長：角攝子 本部長：永崎靖彦
日中活動支援部門統括事業長：浜野亜希子
地域生活支援部門統括事業長：小川貴士
事務長：富森尚子

【あらぐさの理念】

あらぐさは、「どんなに障害が重くても、乙訓でこの子を育てたい、暮らさせたい」と強く願う親たちが力を合わせて生み出しました。社会福祉法人あらぐさ福祉会は、その願いを引き継ぎ、発展させ、障害者が豊かに安心して暮らせる地域社会をめざします。

○どんなに障害が重くても一人ひとりの人格を尊重します。

○一人ひとりの生き生きとした生活と社会参加活動を通して、人間としての豊かさや生きがいを支援します。

○障害のある人が将来にわたって安心して暮らせる地域社会をめざします。

後援会へのご加入・ご継続
ありがとうございました

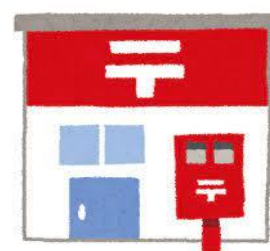
2022年12月1日～2023年3月31日

敬称略 順不同

T&T 美容室鳥居敏江 井古テル子 石井憲生
石田秀子 五十棲福男 一箭浩志 井上治夫
井上はる奈 大橋祐子 金森たえ子 古瀬祥江
後藤邦子 澤月子 島津絢子 嶋本芳輝
嶋本美恵 すずき内科クリニック鈴木元 寺内寿
高橋久美子 高橋征吾 高橋明美 多田美智恵
田中礼子 西陣会ふらヴィジョン親の会
仁村佳與子 濱川君代 林広子 谷川邦宏
平野元子 廣岡富美子 本田章子 松島朱美
水口秋子 道場恵美子 三橋眞子 村田清子
毛利靖子 吉瀬順子 平井修司 匿名5名

後援会への入会・募金のお願い

あらぐさ後援会の活動やあらぐさ通信の発行・発送は、皆様からの会費や募金によって支えられています。継続の会費納入がまだの方がおられましたら、同封している振込用紙をお使いいただき、ご入金の際、よろしくお願い致します。





あらぐさと私

ケアホームいろどり 職員

大村 祐司 さん

(おおむら ゆうじ)



2023年3月より『ケアホームいろどり』でお世話になっております、大村祐司と申します。京都に生まれ京都にて育ち、身も心もはんなりしております。学生時代はボクシングに汗を流していた肉体派はんなり男子でございます。

格闘技に野蛮なイメージをお持ちの方もおられるとは思いますが、健全な肉体と精神をもって目標にむかってひらすら精進していくという部分は、社会人になった今も経験が生きていることを実感することがあります。

ボクシングの活動のなかで障がいのある方と交流する機会がありました。『車いすボクシング』というレクリエーションにて、ボクシングの技術を指導させて頂く機会があり、そのような企画をしている方がいるという事にまず感銘をうけ、内容に関してもいかに楽しんで頂けるようにという配慮がされており、そういった活動に参加させて頂けた事が福祉の仕事に興味をもったきっかけでもあります。

そういった想いを心の片隅に置きながら、様々な仕事を経験してきましたが、やはり福祉の仕事に従事したいという思いが強くなり就職活動をしている中、あらぐさと出会いました。

施設で利用者さんの活動を見学させて頂いたとき、沢山の笑顔がそこにあり、私の心にあった福祉の仕事に従事したいという思いがより確信に変わり、利用者さんのお力になりたいと思い希望を出しました。

利用者さんや職員も皆様温かく、入職後も沢山の先輩職員さん達から優しく業務を教えて頂き、日々勉強しながら楽しくお仕事をしています。

毎日が気づきと発見の連続で、利用者さんに寄り添いながら自身の人生観や価値観も非常に視野が広がっている事を日々実感しております。

まだまだ、至らないことも多々あり、ご迷惑をおかけしているとは思いますが、利用者さんと寄り添いながら共に成長し、家族のような存在になれるように日々精進してまいります。

今後とも、宜しくお願い致します。



1992年6月5日 第3種郵便物承認 (毎月1回25日発行) 2023年6月16日発行
KTK増刊通信巻第5380号 発行所 京都障害者団体定期発行物協会
〒602-8144 京都市上京区丸太町通黒門東入藁屋町 536-1 元待賢小学校1階
京都障病連内 発行人 高谷修 頒価50円 (購読料は会費に含まれています)

KTK

あらぐさ通信